

福井県支部

福井県内観光産業の活性化に向けた調査研究～あわら市、勝山市に向けた提案～

地方における人口減少が加速化する中で、再び地域産業活性化の視点として「交流人口の増加」＝「観光活性化」に取り組む自治体が増えている。

しかし、これまでの観光振興策は、従来の景勝地や自然資源、寺社仏閣や史跡等への集客向上を図るための取り組みが中心で、地域経済の視点や観光ビジネスの振興に焦点を当てたものは少ない。また、観光来県者の観光行動に関する実態調査も少なく、具体的な観光振興策を実施するための準備が不足していることも問題で、まずは実態を把握することから取り組む必要がある。

そのような中で、福井県の観光は、大きな転機を迎えている。北陸新幹線の金沢駅開業と舞鶴若狭自動車道の敦賀開通が、3年後の平成26年度末に迫っており、本県観光にとって大きなビジネスチャンスにつながるが、しっかりと活用策をとらなければ、観光客が通過したり、本県にこれまで来ていたりリピート客が流出するだけとなる。つまり、これまで以上にスピード感を持った事業展開が求められる。

民間企業の調査結果から考えられる福井県の観光が抱える課題は、①県外からの観光客が少ない、②観光消費額が少ない、③情報発信が少ない、④食以外の満足度が低い、の4点があげられ、課題の本質や地域の現状を踏まえた対応が必要である。

この課題を踏まえた上で、近年、温泉への観光客入込数が減少しているあわら市と県立恐竜博物館を中心に入込みを増やしている勝山市を取り上げ、現状把握から具体的な観光ビジネス活性化に向けた提案に取り組んだ。

あわら市では、①温泉街としての魅力づくり、②農業や近隣市町、行政との連携、③個々の温泉旅館の活性化、を切り口に、「人」を中心としたソフト事業（オンパク等）による新たな魅力づくりとリピート客増に狙いを絞った取り組みの必要性と具体的なアイデアを提案した。

一方、勝山市では、主要な観光資源である①県立恐竜博物館とジオパーク、②自然・環境、③アウトドアレジャー、④平泉寺、⑤越前大仏、⑥勝山左義長まつり、を取り上げ、それぞれの資源を活かした新たな観光ビジネスづくりに向け具体的な提案に取り組んだ。

最後に、福井県の観光に共通する課題の解決に向けて、①現状を把握する、②ターゲット市場を絞り込む、③課題の本質をとらえる、④戦略と戦術を明確に、⑤取り組みの優先順位をつける、といった視点を提案するとともに、観光振興の目的の明確化と地域における共有が、今後の「観光振興」→「交流人口増」→「まちづくり」→「地域経済活性化」につなげ、観光振興から地域振興へと発展させていくための基礎として必要であり、まず観光客目線での現状把握を提案した。

福井県内には、特徴的な観光資源を持ちながらうまく活用できていない地域が多く、「着地型観光商品」など新たな魅力づくりへの取り組みもスターとしており、中小企業診断協会福井県支部では、これらの提案を地元へ呼びかけるとともに、地域と一緒に実現に向け取り組んでいく。